

「クマモト城」と豊臣政権

熊本城調査研究センター

しもたか
下高大輔

■本日の内容

古城（隈本）と新城（熊本）、二つの「クマモト城」について、豊臣政権下における位置付けをお話しします。 ※ちなみに、本日の内容はセンターとしての総意ではありません！！

■本日の話の流れ

1. 石垣からみた隈本城と熊本城の平面構造を把握

⇒石垣の構築時期を特定し、普請工程についてお話しします。

2. 加藤清正の隈本城と熊本城の比較 ⇒隈本城の最終形態と熊本城の当初形態から、新城築城の時代背景について全国の事例を交えて考えてみます。

3. 豊臣期の城が似ていることの意味 ⇒最近の豊臣政権に関する研究を交えて考えてみます。

1. 石垣からみた隈本城と熊本城の平面構造を把握

築城で石垣が用いられた城は、石垣から普請工程を復元できる可能性あり。

特別史跡熊本城跡は様々な石垣あり。

→①構築当初石垣②江戸期修築石垣③近代の陸軍等修築石垣④文化財石垣として修復・復元
城郭石垣の歴史考古学的研究の必要性（城郭石垣に関する研究はたくさんあるものの…）

城郭石垣観察の視点： ※当初石垣（元亀・天正・文禄・慶長・元和・寛永期） ※修復石垣（寛永期以降）

- ・ これまでは隅角部と勾配 ⇒ 築石部に目を向ける
- ・ 技術の変遷論が多い ⇒ 発注者（権力者・大名など）の嗜好・目的も
- ・ 築城当初と修復を一括り ⇒ 当初石垣と修復石垣は別で
- ・ 石垣発達（進化）論 ⇒ 必ずしもそうとは限らない

→特別史跡熊本城跡の様々な石垣の分布状況を把握する【分布論】

→石垣の乗り合い関係から様々な石垣の新旧関係を考える【層位論】

→築石の石垣面の様相から様々な石垣の新旧関係を考える（下高2017c・2018b）

⇒熊本城の石垣の変遷【文献資料とのクロスチェック】（センター案として作成中）

①古城期/新城0期：天正18年（1590）～慶長4年（1598）※石垣普請は天正年間中

【隈本古城】加藤清正

②新城1期：慶長4～11年（1599～1606）※石垣普請は慶長4・5年頃

【隈本新城】加藤清正⇒秀吉死後の豊臣政権内の亀裂など（特に「庄内の乱」）による軍事的拡張

③新城2期：慶長11～12年（1606～1607）

【熊本城：完成期】加藤清正⇒公儀普請参加[清正書状]の影響をうけて石垣普請技術の向上か

④新城3期：慶長16～元和年間（1611～1624）

【熊本城：拡張期】加藤忠広⇒慶長17年の肥後国支城整理[秀忠日記増補]の影響か

⑤新城4期：寛永2～9年（1625～1632）

【熊本城：加藤家修復期】加藤忠広⇒寛永2年6月熊本地震の被害を受けて。

※築石加工度・積み方から寛永期の城郭石垣の特徴（全国共通）。寛永9年細川忠利入城以降の石垣修理は記録が豊富であり丁寧な修理申請（熊本城調査研究センター2019）。細川家による寛永期の申請で該当する石垣修復箇所が見当たらないことから加藤家による修復と考えられる。

⑥新城5期：寛永11年～（1625～1632）

【熊本城：細川家修復期】細川忠利以降⇒修復様相を3期に細分可能（熊本城独自）（嘉村ほか2019）

⇒石垣からみた熊本城の普請工程（センター案として作成中）

2. 加藤清正の隈本城と熊本城の比較 隈本城と熊本城（慶長4年：加藤清正）

構成⇒（仮称本丸・仮称二の丸・「つめの丸」（[肥後国熊本様子聞書]慶長16年7月・清正死直後））

近江の事例（下高2017b・2017d）：佐和山城と彦根城（慶長9年：井伊直継（徳川家臣））

大津城と膳所城（慶長6年：戸田一西（徳川家臣））

ほかの事例（乗岡2015）：出雲月山富田城と周防岩国城（慶長6年吉川広家（毛利家臣））

3. 豊臣期の城が似ていることの意味

大坂（天正11・羽柴秀吉）＝郡山（天正14改修・豊臣秀長）・岡山（天正16改修・宇喜多秀家）

八幡山（天正13・豊臣秀次）＝水口岡山城（天正13・中村一氏）・佐和山城（天正14改修・堀尾吉晴）・
秋山（天正13改修・伊藤掃部助義之）・国吉（天正14改修・木村常陸助光定）

聚楽第（天正14・豊臣秀吉）＝清洲（天正14改修・織田信雄）・広島（天正16・毛利輝元）

※天正13年7月豊臣政権樹立後から順次、大坂城型・八幡山城型・聚楽第型が成立し、これらの城主・城
代を豊臣政権の「家格」制度と絡めて解釈（下高2015c・2017a）【豊臣城郭統制】

【第1期出現】天正13年（1585）似ている城の出現

【第1期完成】天正16年（1588）似ている城が政権の城郭統制策として成立・具現化★天正18年、隈本城改修開始

【第1期変化・第2期出現】文禄4年（1596）八幡山の廃城・聚楽第の破却（文禄4年の政変（藤田2015））

【第2期斜陽開始】慶長3年（1598）秀吉の死 ※実際は死が公表される翌年★慶長4年、熊本城築城開始

／慶長5年（1600）関ヶ原の合戦（武力衝突による政変）／慶長19年（1614）大坂冬の陣、戦後に

大坂城の堀埋め戻し／慶長20年（1615）大坂夏の陣、大坂城落城、豊臣宗家滅亡

豊臣政権の最近の研究 ※ほんの一部しか紹介できていませんが…

豊臣姓・羽柴名字、秀吉独裁、五奉行・五大老⇒五奉行・五大老は後世、家格（清華成・公家成・諸大夫成）

主な引用・参考文献 ※ゴシック体は比較的手に入りやすい文献です。嘉村哲也・木下泰葉・下高大輔・関根章義2019「熊本城の江戸期修復石垣の様相—彦根城と仙台城との比較から修復石垣の変遷を考える—」『熊本城調査研究センター年報5』／熊本城調査研究センター2019『特別史跡熊本城跡総括報告書 歴史資料編』／乗岡実2015「石垣と瓦から富田城を考える—秀吉時代の山陰と山陽—」（発表レジメ）／藤田達生2015「文禄四年政変と近江佐和山城」『織豊期研究』第17号 織豊期研究会／矢部健太郎2011『豊臣政権の支配秩序と朝廷』吉川弘文館／同2014『関ヶ原合戦と石田三成』吉川弘文館／下高大輔2013「兵庫城石垣と城郭石垣研究の課題と展望」『ヒストリア』第240号 大阪歴史学会／同2014a「豊臣秀次の本・支城からみた佐和山城の縄張り—本丸構造と東山麓の堀・土塁の成立を考える—」『戦国武将と城 小和田哲男先生古稀記念論集』サンライズ出版／同2014b「佐和山城と彦根城の主要部にみる新技術導入試論—織豊期山城における石垣配置分類の試み—」『淡海文化財論叢』第六輯 同刊行会／同2015a「大津城」『近畿の名城を歩く 滋賀・京都・奈良編』吉川弘文館／同2015b「彦根城石垣普請工程解明の基礎的作業」『織豊城郭』第15号 織豊期城郭研究会／同2015c「関白豊臣秀吉政権の城郭体制—天正十三年体制—」『西国城館論集Ⅲ』中国・四国地区城館調査検討会／同2016「佐和山城形成過程考—佐和山城大改修と豊臣政権—」『淡海文化財論叢』第八輯 同刊行会／同2017a「豊臣政権が完成させた佐和山城—井伊直政がみた姿—」『佐和山御普請、彦根御城廻御修復—発掘・解体調査からみえてきたもの—』（企画展示図録）彦根市教育委員会文化財部文化財課／同2017b「旧城佐和山・新城彦根の平面構造の近似性—彦根城石垣普請工程からの検討—」『佐和山御普請、彦根御城廻御修復』（前掲収録書籍と同じ）／同2017c「豊臣城郭石垣の変遷—城郭石垣変遷が示す豊臣政権—」『織豊城郭』第17号 織豊期城郭研究会／同2017d「井伊家居城の佐和山城と彦根城が示す豊臣政権」『織豊期研究』第19号 織豊期研究会／同2018a「豊臣期佐和山城の形成過程」『豊臣の城からみた佐和山城』織豊期城郭研究会／同2018b「倭城の石垣面に関する覚書—二種類の石垣が示す豊臣政権直轄普請—」『織豊城郭』第18号 織豊期城郭研究会